

令知会雑誌

1884(明治17)年～1892(明治25)年

体裁ⅡA4判(2面付)・上製・

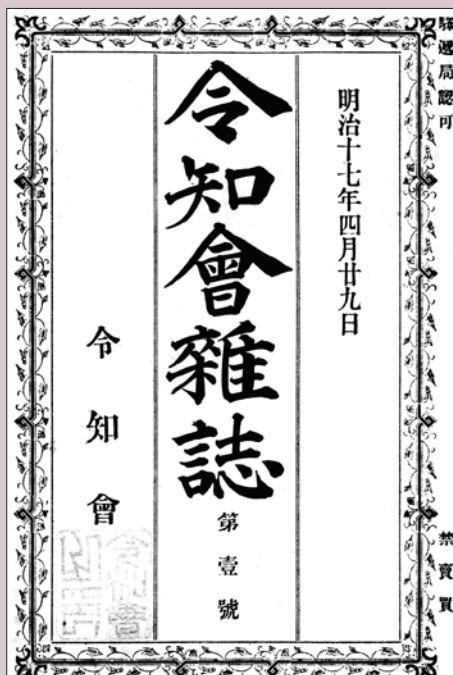
総約3、030頁(原本約6、060頁)

監修Ⅱ中西直樹・近藤俊太郎

推薦Ⅱ大谷栄一

揃定価Ⅱ本体175、000円＋税

仏教結社運動が最盛期を迎えた明治一〇年代後半、島地黙雷、日下痴龍、吉谷覺寿、多田賢住らを中心に結成された「令知会」の機関誌全九五号を復刻。仏教雑誌の先駆的存在ともいえる本誌は、当時の仏教界の様子をうかがえる貴重資料である。



復刻版
全7巻

不二出版

復刻にあたって

西洋化とそれに伴うキリスト教の進出に対する僧侶たちの危機感を背景に、仏教界は明治二〇年代に改革の時代を迎えた。そうした仏教改革の気風の胎動として、明治一〇年代後半からは僧侶による結社活動が活発化した。島地黙雷、日下痴龍、吉谷寛寿、多田賢住らは令知会を結成し、明治一七年四月に機関誌『令知会雑誌』を創刊した。令知会は当時の代表的な仏教結社のひとつであり、『令知会雑誌』はその後の仏教系メディアの先駆的位置にあるといえる。

『令知会雑誌』は明治二五年二月の第九号まで刊行され、その後は『三宝叢誌』と改題し、刊行を続けた。令知会は、僧侶の積極的な啓蒙運動による文明化の推進を企図するもので、『令知会雑誌』には、教導職制の廃止、オックスフォード大学に留学していた南條文雄の帰国、墓地及埋葬取締規則の公布といった、現在からみても仏教界の重大な記事や論説が数多く掲載されている。

『令知会雑誌』は原本を所蔵している研究機関が極めて少なく、国立国会図書館にも一号も所蔵されていない。容易に手に取ることのできない本誌を復刻刊行し、日本近代仏教史研究に供するものである。

(不二出版)

『令知会雑誌』復刻の画期的な意義

大谷栄一（佛教大学社会学部教授）

近代は仏教結社の時代である。たとえば、革新的な仏教青年たちによって結成された反省会（明治一九年）や新仏教徒同志会（明治三二年）も仏教結社だった。近代仏教史における仏教結社の重要性をいち早く指摘したのは柏原祐泉氏と二葉憲香氏であり、その後、池田英俊『明治仏教教会・結社史の研究』（刀水書房、一九九四年）によって研究が深められた。池田氏によれば、結社運動は一八八四（明治一七）年八月の教導職制の廃止前後に最盛期を迎え、明治一〇年代に四〇〇余りの結社が設立されたという。

今回復刻された『令知会雑誌』は、一八八四（明治一七）年四月から一八九二（明治二五）年二月まで、令知会という仏教結社によって刊行された雑誌である。四〇〇余りの結社の中で令知会が際立っているのは、島地黙雷（浄土真宗本願寺派）や吉谷寛寿（真宗大谷派）をはじめ、近代真宗史や近代仏教史を彩る著名人が中心メンバーや雑誌の執筆者であること、明治二〇年前後という近代仏教史研究のエアポケットの時期に活動し、雑誌を継続的に刊行していることである。さらには、『令知会雑誌』が後続する仏教雑誌に影響を与えたことも特筆すべきである。

近代は仏教結社の時代である。と言ったものの、その研究はいくつかの特定の結社の研究に偏っており、その実態や全体像は未解明のままである。それは活動の実態を伝える資料が未公開だったことによる。九五冊に及ぶ『令知会雑誌』の復刻は仏教結社研究のみならず、島地黙雷研究、排耶論や仏教改革論の思想史、近代仏教のメディア史など、近代仏教史や近代史を更新するための重要な手がかりを与えてくれる。本書の刊行を喜び、強く推薦したい。

令知會雜誌

社説

會員諸兄ニ告

嶋地 獸雷

我曹今茲ニ令知會ヲ一社ヲ設立セシニ有道ノ諸兄此舉ニ賛成入社ノ好意ヲ報道セラレ初メテ雜誌第一號ノ發兌ニ着手スルニ方テ直ニ社名ノ出據タル常令此尊知我心行ノ文意ニ從順シ我曹ノ心行ヲ廣ク同心ノ兄弟否彌陀佛慈光ノ靈德ヲ各自心内ニ領有セラル、正定不退ノ大菩薩衆ニ告知スルノ榮ヲ得タルハ深ク感謝スルニ餘リアリ我曹此多恩ニ謝スルニ何ノ事ヲ以テセンカ他ナシ我曹カ領解スル所ノ心事履行スル所ノ急務ヲ報シ以テ我曹カ報謝佛恩ノ經營ニ供スル所アラント欲スル者ナリ

我曹即チ信ス諸兄ハ既ニ慈悲佛海岳ノ大恩ヲ感受シ心身ヲ舉テ全ク佛

明治二十五年一月廿三日

目録

- 會説
●新年の感及び前途の冀望
●論説
●佛敎家は何故に女學校を設立せざるや
●順序論
●講義
●佛敎信徒の全義務
●龍の話(新年法話)
●大蔵却論(接前)
●和語釋聲(接前)
●新年の儀式
●寄書
●支那宗教の派別に就て一言す
- 史譚
●二宮尊徳翁の傳
●雜錄
●牛僧坊破戒僧を戒む
●雜報
●御歌會始●英皇皇太孫薨去●寺院及住職地方制●衆議院解散●總選舉●勤王家の光榮●學力檢定試験●の信者●今女敎會の成績●釋尊靈跡のパノラマ●眞成
- 批評
●亞細亞人●新佛敎論●清狂遺稿
- 應答
●獅子身中の蟲の答●非南北合論の理由如何の答●普化宗の答●信前稱名の答
- 詞林
●詩俳數首
- 質問六件 報告 廣告
- 井上 圓了
四村茂樹 演述
南條文雄 譯述
島地 獸雷 演述
六六散人 譯
松村翠 譯
雷 道 人
北 斗 生

令知會雜誌

第九拾四號

主要執筆者一覽

- | | | |
|-------|------|------|
| 生田得能 | 蘭田宗恵 | 福田行誠 |
| 石村貞一 | 多田賢住 | 北条祐賢 |
| 井上円了 | 辻 円証 | 前田慧雲 |
| 大内青巒 | 土屋 寛 | 松村翠濤 |
| 小栗栖香頂 | 土岐善静 | 松本順乗 |
| 日下痴龍 | 徳永満之 | 村上專精 |
| 佐々木狂介 | 南條文雄 | 吉谷覚寿 |
| 島地獸雷 | 平松理英 | 和田痴堂 |
| 末松謙澄 | 平松理賢 | |

○會員諸君ニ告ク

平松理英稿

光陰ノ推移スルハ實ニ白駒ノ隙ヲ過キ彈丸ノ盤ニ跳ルモ宵ナラス回顧スレハ去年三月某日獸雷師ニ光明寺ニ謁シタル時師ハ余ニ告クルニ日下龍川諸君カ創立セラレタル令知會ノ旨趣ヲ以テシ且ツ之レニ入會センコトヲ懇懇セラル是ヨリ先キ余ハ既ニ佛敎講談會員諸君ト謀リ一雜誌ヲ發兌セントスルノ際ナルヲ以テ其計畫ヲ師ニ諮ル師曰ク子等ノ舉美ハ則チ美ナリト雖モ各々孤立シテ事業ヲ起サシヨリハ協同シテ事ニ從ハンニハ如カズト余ニ諭教セラル、甚タ懇ナルヲ以テ乃チ之レヲ講談會員諸君ニ告ケ二三ノ有志ト俱ニ師ノ廬ヲ訪ヒ日下氏等ト相ヒ議シ本會ノ組織ヲ改メ協同事ニ從フノ議乃チ成ル越テ四月三十日本會雜誌第一號ヲ發兌スルコトニ決シ副會長ノ指名ヲ以テ幹事編輯委員ヲ定ム余ノ不敏ヲ以テ其未斑ニ列スルヲ得、専ラ雜誌ノ編

令知會雜誌第六拾壹號

明治二十二年四月廿三日發行

本誌改良の旨趣

島・地・黙・雷

改良變更は、事業進歩の一大機關にして、進化競争の原則に契ふ者たれば、社會百般の事に於ける、能く之を用ゐて改進せる者は、必ず昌盛發達の運に趣き、若之を捨て、舊弊に固着せる者は、必ず衰頹滅亡の極に歸ると、萬物消長の自然にして亦争ふべからざるの事實也、彼の河水江流の清潔なる者は、源泉混々流れて息まず、常に進動遷移するが爲也、其汚池汚溝の混濁せる者は、停滯腐敗曾て流動變化せんとなきが故也、人世百般の事概ね皆此に類し、改良變更の事物に必要な、亦喋々

を要せざるなり

回顧するに、本誌の初めて世に發現せしは、明治十七年の四月にして、今を距ると六年前の昔日にあれば、當時は雜誌の發行も僅々たる者にて、學術教法律經濟等、各種専門家の機關に行はれて、屈指をべきの少數ありし、爾來世人の好尚は此に傾き、發行種類の日月に増加せる、彼の戯著小説の流行と並進し、炊婢掃僕も、之を懷中せざるはなく、書肆繪舗の店頭も、猶之を堆積せざるはあきが如し、何ぞ其盛なるや

如此雜誌發行の許多あるが中に於ては、或ハ一時の風潮に伴ひ、或は好事の客氣に任せ、朝發暮停、昨有今無、種々の妖怪も出現せりと雖も、概して之を論ぜれば、如此雜誌發行の許多なるは、偏に是文華發揚の現象にして、事物進歩の反影と云つべき

論說

外教ノ蔓延セサルヲ憂フ

桐陰居士

フテ生滅息ム時ナシ而シテ其生滅スル甚ク迅速ニシテ現在ヲ認ムルコト難シ過去ノ終時ハ實ニ未來ノ始時ヲ爲セリト

今居士カ如此題ヲ掲ケ來ラハ讀者必ス彼レモ亦外教ニ心醉スルゾト速量セラル、人モ有ヘケレ共決シテ左ニ非ス只外教ノ蔓延シテ佛法ヲ激昂セシメゾコトヲ希望スルニ外ナラサルナリ何トナレハ佛教ナル者ハ古來之ヲ排毀スル者アル毎ニイツモ其勢ヲ激昂シテ隆盛ニ赴キシコト彼ノ金銀ノ磨勵ヲ經テ益其光輝ヲ増シ珠玉ノ雕琢ヲ經愈其光澤ヲ添フルカ如シ古人謂ハスヤ之ヲ空言ニ載セント欲スルモ之ヲ行事ニ見ルニシカス依テ今史籍ニ徴シ月日ヲ記シ以テ前言ノ謬妄ナラサルコトヲ確實ニセシ

不敬事件を論ず

嶋地嘿雷

近時文運の隆盛なる、萬里一超長足の進歩にて、形而下即ち物質的の文明は、非常の速度を以て、發達せしにも拘らず、形而上即ち道義的の操行、所謂倫理上の事に至ては、敗類日に一日よりも甚しく、壞亂の極に相率ひて野蠻禽獸に陥らんとする如き形狀なるは、真に慷慨憤慨長大息の至りに堪へざるなり、抑他人の短長を評説するは、我曹の甚だ慷慨せざる所あれ共、世道人心に關係ある、奚ぞ之を言はざるに忍ふへけんや、思ふに諸兄は早く己に、領知せらるゝ所あるへし、彼の去年淺草囃子館に開きし討論會の如き、子たる者父母に孝事をへき義務ありや否やを、討論せしに至ては、我曹實に道義の壞亂、此極に達したるを、驚愕悲歎せざるべからざる也

蓋し義務の有無を問題に掲げし者は、其眼中意内早く己に父母に孝事をへき、古來儒佛二教カ、道如何ぞ、頗る了解に苦し發せし者なるへし、而し

令知會條規摘要

- 本會ハ左ノ事業ヲ以テ旨趣ヲ達セン
- 一 毎月一回在京創立會員ノ會同ヲ開キ會務ヲ議決シ教法及教法ニ關係アル諸種ノ學術ヲ講義討論スル事
- 一 各地方會員ニ於テ意見若クハ疑問アルキハ本會ニ向テ之ヲ開伸シ本會ハ其答辨ヲ爲ヘキ事
- 一 毎月一回雜誌ヲ編纂印行シ會員ニ頒布スル事
- 一 教法ニ必用ナル書籍ヲ編輯印行スル事
- 會員ハ本會ノ旨趣ヲ達スルヲ以テ之ヲ願ツ任シ且ツ年金一圓宛ノ簽金ヲ出スモ送附スベシ(郵券代用一割増)
- 但シ爲替ハ麴町郵便局へ振込ムベシ
- 會員タラシテ請フ者ハ國郡住所姓名ヲ記シ申込書ヲ幹事ニ送り幹事之ヲ檢覈シ雜誌ヲ交附ス

■龍谷大学アジア仏教文化研究叢書
龍谷大学アジア仏教文化研究センター
中西直樹（代表）・林 行夫・吉永進一・大澤広嗣 編
資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流

一九三三年三月、日本は国際連盟を脱退し国際的な孤立状態に陥った。そのような中、日本仏教の関係者たちは欧米の仏教者・研究者と緊密に連絡を図り、アジア諸国の仏教勢力との協力提携を目指した。その事業は基本的に国策に順応する方向性をもっていたことは否定できないが、広範囲かつ大規模に及ぶこれらの事業には、様々な立場の人物が関わり、その活動も多様な側面を有していた。いま、日本の民間レベルでの国際交流のあり方を問い、これらの事業の検証が求められていると言えよう。本資料集は、そのための必要不可欠な文献を収録したものである。

推薦Ⅱ赤松徹眞・楠 淳證

◆第Ⅰ期

汎太平洋仏教青年会大会関係資料 全2巻

体裁ⅡB5判・上製・総1、008頁

定価Ⅱ本体48、000円＋税

◆第Ⅱ期

『海外仏教事情』（一九三四～四四年、国際仏教協会発行）

全3巻

体裁ⅡB5判・上製・総1、298頁

定価Ⅱ本体72、000円＋税

◆第Ⅲ期

『国際仏教通報』『日華仏教』『支那宗教事情』『東亞宗教事情』

刊行Ⅱ2017年10月予定

中西直樹 編・解題

仏教海外開教史資料集成

本資料集は、ハワイ・北米・南米における膨大な仏教開教関係の記録であり、仏教教団の海外の現状と歴史を検討するための、必要不可欠な資料集である。

推薦Ⅱ大村英昭・坂口満宏

〈ハワイ編〉全6巻

体裁ⅡA5判・上製・総3、642頁

定価Ⅱ本体120、000円＋税

〈北米編〉全6巻

体裁ⅡA5判・上製・総3、372頁

定価Ⅱ本体120、000円＋税

〈南米編〉全3巻

体裁ⅡB5判・A5判・上製・総1、526頁

定価Ⅱ本体60、000円＋税

中西直樹 著

仏教海外開教史の研究

本書は『仏教海外開教史資料集成（ハワイ編・北米編・南米編）』に収録した解題と収録内容一覧を一冊にまとめたものである。

体裁ⅡA5判・並製・120頁

定価Ⅱ本体2、000円＋税

菊池正治・高石史人・中西直樹 編・解題

戦前期仏教社会事業資料集成

全13巻

明治末から大正・昭和戦前期、仏教が社会事業に果たした役割は大きく、各教団による事業、僧侶ら仏教者が設立した施設、寺院に附設された施設は膨大な数にのぼる。本資料集成では、浄土真宗本願寺派、真宗大谷派、浄土宗をはじめ曹洞宗、日蓮宗、真言宗の各教団関係機関の発行した社会事業の要覧・便覧・報告書等を収集整理し、収録した。戦前期仏教社会事業の軌跡を、国家目的遂行に利用された側面も含めて検証し、仏教史・仏教福祉、さらに近代史・社会福祉研究のための基礎資料として提供する。

推薦Ⅱ長谷川匡俊・室田保夫

体裁ⅡA5判・上製・総7、556頁

定価Ⅱ本体334、000円＋税

中西直樹・高石史人・菊池正治 著

戦前期仏教社会事業の研究

本書は『戦前期仏教社会事業資料集成』に収録した解題と収録内容を一冊にまとめたものである。

体裁ⅡA5判・上製・168頁

定価Ⅱ本体2、500円＋税

りようちかい 令知会雑誌

復刻版
全7巻

体裁ⅡA4判(2面付)・上製・総約3、030頁

収録Ⅱ第1号～第95号(明治17年～25年)

監修Ⅱ中西直樹(龍谷大学教授)

近藤俊太郎(本願寺史料研究所研究員)

推薦Ⅱ大谷栄一(佛教大学教授)

揃定価Ⅱ本体175、000円+税

◆配本概要

第1回配本(第1～3巻)

収録Ⅱ第1号～第37号

定価Ⅱ本体75、000円+税

ISBN978-4-8350-8091-8

刊行Ⅱ2017年6月

第2回配本(第4～7巻)

収録Ⅱ第38号～第95号

定価Ⅱ本体100、000円+税

ISBN978-4-8350-8095-6

刊行Ⅱ2017年11月

関連図書

令知会と明治仏教

令知会は一八八四(明治一七)年、浄土真宗本願寺派の僧・島地黙雷らが中心となつて結成された仏教結社である。島地はキリスト教の進出に強い対抗意識を持ちながらも、同時に当時の仏教界全体が明治維新後の「文明開化」に遅れを取ってきた現状に危機感を持ち、宗派を超え仏教を文明社会に適合させる改革に熱心に取り組んだ。本書はその令知会の機関誌『令知会雑誌』を研究の対象とし、知られざる明治初期・中期の仏教界の様子を探る解題論文集である。

◎編著 中西直樹・近藤俊太郎 ◎執筆 中川洋子

◎体裁 A5判・上製・200頁 ◎定価 本体2、700円+税

雑誌『國教』と九州真宗

編集復刻版 全3巻・別冊1

明治二〇年代初頭、日本仏教界では、キリスト教に対抗して「通仏教」を標榜して結束する動きが高まった。その拠点となつたのが、九州熊本であった。熊本では、真宗僧侶を中心に「九州仏教団」が結成され、九州各地の各宗派の僧侶・在家信者が数多く参加した。その事業は雑誌『國教』の創刊をはじめ幅広い領域に及び、国粋主義の台頭期には中央言論界でも注目をあびたものの、キリスト教の教勢が衰退すると活動は停滞し、日清戦争前にその役目を終えた。しかし、当時の仏教の革新運動の一翼を担い、日本の思想界にも大きな影響を与えた点で注目に値する。

◎編・解題 中西直樹 ◎推薦 赤松徹眞

◎体裁 B5判・上製・総1、274頁

◎別冊Ⅱ解題・総目次・索引

◎揃定価 本体75、000円+税

表示価格は、全て税別

不二出版

〒113-0033 東京都文京区向丘1-11-11
TEL 03-3821-4433
FAX 03-3821-4464
振替 00160-1194084